彫塑という言葉は、あまり身近ではないかもしれません。
日本にも古くから「塑造」の技法はありましたが、明治時代はじめまで主な彫刻技法は彫り刻んでいく「彫刻」でした。sculptureの訳語として、彫り刻む技法「彫刻（carving）」とかたちづくる技法「塑造（modelling）」を合わせて「彫塑」という言葉が生まれたのです。提唱したのは
大村西崖という朝倉の先生でした。朝倉は「彫塑」という言葉にこだわりを持ち、朝倉彫塑館と命名したのです。
しかし「彫塑」という言葉は定着しませんでした。現在、日本では「塑造」を含んだ広い意味で「彫刻」と呼ぶことが一般的です。